

IGC 2023 Tokyo, JAPAN を傍聴して

山岸昇司

IGC とは

国際宝石学会 (International Gemmological Conference)、通称 IGC は、宝石学における国際学会として最も歴史と伝統がある国際学会で、国際的に著名な地質学者、鉱物学者、先端的なジェモロジストで構成されており、宝石学の発展と研究者の交流を目的に 2 年に 1 度各国の持ち回りで本会議が開催されます。日本では 1981 年に第 18 回 IGC が開催され、今年 2023 年、42 年ぶりに第 37 回 IGC が日本で開催されることになりました。

(以上、オープンセッションパンフレットより引用)

コロナ禍での延期を乗り越え、ようやく今年 10 月 24 日から 27 日まで上野の国立科学博物館で開催されました。本来 IGC は非公開ですが、日本組織委員会のご厚意により 23 日は上野精養軒にて業界関係者のための公開講演 (同時通訳付) が昼食懇親会を挟んで 6 題ありました。翌 24 日より国立科学博物館会議室において約 80 名のメンバーだけのセッションがスタート、そのほとんどが学術発表です。

私は日本組織委員会と JGS の許可を頂き、本会議を傍聴させて頂きました。英語は不得手ですが、パワーポイントのスライドスクリーンと発表者の解説をお聞きしていれば僅かですが分かります。分かる分からないという事よりも私の願いは世界のトップレベルの方々が日本で国際会議を行っていてその場にいられることそれ自体にあるのです。かねがね宝石学の先生方より世界のトップレベルの学者の集う IGC のお話を伺うたびにどのような先生方が参加しどのような研究発表がなされるのか、一度はお聞きしてみたいと昔から思っておりましたので千載一遇のチャンスなのです。

24 日は午前 9 時より Session1 : Diamonds で 1 題約 20 分の発表と Q&A が 3 題続きコーヒープレイク (以下 CB)。国際会議という堅苦しいイメージとは真逆で久しぶりに会った同窓会的雰囲気、皆さん和気あいあいと賑やかに談笑しあいメンバーの親密度が伝わります。続いて 2 題の発表があり昼食、午後は Session2 : History and Museums で 5 題の発表、CB を挟み Session3 : Gemmology1 で 2 題、Session 4 :Gemmology2 で 3 題の発表があり午後 6 時頃終了。

25 日

午前 9 時より Session 5 :Colored stones 1 で 4 題

CB

Session 6 :Colored stones 2 で 3 題

昼食

午後は Session 7 :Colored stones 3 で 4 題

CB

Session 8 : Technology & Techniques で 5 題

午後 5 時すぎ終了。

26日

午前 9 時より Session 9 :Corundum1 で 4 題

CB

Session10:Corundum2 で 4 題あり午前で発表は終了。

午後は皆さん品川にある翡翠原石館見学に行かれました。

27日

午前 9 時より Session11:Pearls and amber で 5 題

CB

Session12 : Jade で 3 題

午前で全てのセッションが終了いたしました。

分からないながらもルビーのガンマ線照射処理の発表やミャンマー産、グアテマラ産翡翠の比較分析発表は興味を惹きました。印象に強く残ったことはアヒマディ先生の発表により「宝石学の父」と呼ばれる故近山晶先生が世界中から集めた標本石の価値そして国際的な活躍を知れたことでもあります。個人的な話になりますが、9年前に古屋先生が日本で開催したダイヤモンドセミナーに講師として訪日されたモスクワ大学の宝石学研究センターの所長である Yuri Shelementiev 博士も今回いらしていて、その時の講義のお礼を申し上げることができたのもありがたいサプライズでした。

日本の先生方の講演タイトルを挙げると（講演順）

神田久生博士：A brief history of synthetic diamond researches in Japan

中村雄一先生：Initiatives for sustainable pearl cultivation in Japan

北脇裕士博士：Gemmological studies of “Hybrid Diamond”

門馬綱一博士：Overview of the “GEM” special exhibition at the NMNS

阿依アヒマディ博士：A study of Chikayama’s gem and mineral collections

古屋正貴先生：Cobalt spinel from Bai Buoi mine, Yen Bai, Vietnam

江森健太郎先生：Crystal structure of nano inclusions in blue sapphire from Diego Suarez, Northern Madagascar

日本組織委員会の方々は

北脇裕士博士、阿依アヒマディ博士、古屋正貴先生、江森健太郎先生、大久保洋子氏

訪日された各国の先生方のご同伴者もおられるわけでその方々の接遇も含め歓迎行事を中心となって引き受けたのが大久保洋子氏です。オープンセッションの昼食懇親会でお琴三味線尺八のプロの演奏を披露したりご同伴者のおもてなし企画を立てたりと裏方の細かい心配りが皆さんの訪日をさらに豊かなものにしたことであらうでしょう。かくして IGC 2023 全日程が成功裡に終わることができましたのも多くの組織や団体の力強い支援や後援があったればこそとお聞きいたしております。お陰様で私も充実した五日間を過ごさせて頂くことができました。傍聴をお許し下さいました皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

IGC の詳しい情報は下記をご覧ください。

[IGC \(igc-gemmology.org\)](http://igc-gemmology.org)